

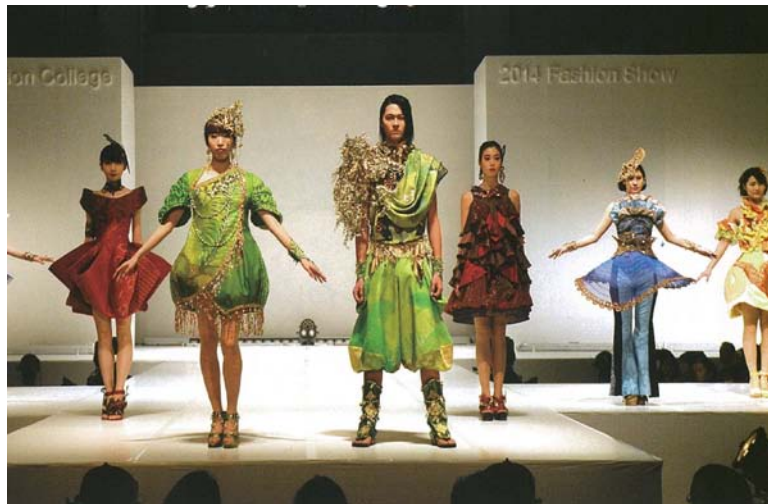
アセアンファッションショー事業

文化服装学院 x 日本アセアンセンター

「アセアン素材を探してーシンガポール、タイ、ミャンマー」

日本アセアンセンターは昨年につき、今年も文化服装学院との共同事業「Introduction of ASEAN Materials into Japanese Fashion Business」を実施しました。11月2日（月）、3日（月）、4日（火）に開催される当学院の文化祭ファッションショーで「アセアン」をテーマにデザインされた衣装を披露します。

2014年度ではアセアンのアルファベット順で最初の5カ国（ブルネイダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア）を対象に、文化服装学院の学生がそれぞれの国を訪問。各国の伝統的な美しい素材の数々を調達し、衣装を制作しました。



2014年の「アセアンファッションショー」

2015年度は後半5カ国（ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）を学生グループが回り、ファッションショーの素材を求めて各国の繊維企業や工房、マーケットを訪問しました。その中で、8月2日から16日までシンガポール、タイ、ミャンマーに派遣された2組の学生グループに同行しましたので、現地での活動をご紹介します。

最初に訪問したのはシンガポール。今年は建国50周年ということで街はお祝いムード一色に。SG50という建国を祝うマークとともに、通常7月に終了するセールを8月まで継続しているショップがあったり、「Singapore」や「マーライオン」のマークがプリントされた赤と白の服やバナーなどが店先や街中に飾られ、国全体が盛り上がっていました。



世界中の物が揃っているシンガポールですが、素材探しとな



るとかなり難しい。都市国家として成長してきたシンガポールは貿易と金融に重きを置き、工業化を通して国の発展を目指してきました。国内での繊維産業の規模は小さく製造拠点は国外へシフトしている傾向にあります。学生たちも現状を把握しており、シンガポールの特徴を活かすようなデザインを考えて柔軟に対応していました。モノトーンをベースにしたデザイン案で、シンプルでありながら洗練された美しさ、それはスタイリッシュなビルが建ち並ぶシンガポールそのものを表現しています。衣装は11月のショーで発表されます。



次にタイへ移動しました。タイはその歴史からみても豊富な文化遺産を持ち、織物に関しても綿やシルクを使い様々なデザイン、織り技術でタイの地方独特な模様を布に施しています。事実、タイを訪問する前からタイシルクの情報に学生たちに届けられ、その完成度の高さに世界でブランドを確立させたタイシルクの魅力を再認識しました。タイではシルクを中心に地理的表示 (GI: Geographical Indication) を導入しています。これは地方の名産である織物の知的所有権を守り、その国際市場での地位を高める事を目的としてスタートしたものです。申請が許可されると GI マークを製品に添付することができます。今回 GI 登録された7種類のタイの布を中心に、バンコクとアユタヤで素材を探しました。



<GI 登録> マエチャムティンチョコ布

ヨックドックシルク

マットミーシルク

アユタヤではタイ工芸国際サポートセンター (SACICT) を訪問。伝統的なハンディクラフトから革新的なクラフトまでタイの工芸品全般を幅広くプロモーションしており、学生たちも担当者の説明を熱心にきいていました。バンコクではタイシルクの展示即売会を視察、そこで展示されていた GI シルクを直接手にとりその風合いを楽しんでいました。GI シルクは高品質ではありますが、その分価格も高いです。展示会場では一般の

タイシルクも販売されていまして、デザイン画を片手に色の組み合わせを調整しつつ布地を選んでいました。



SACICT でのミーティング



SACICT の展示場



タイシルクの説明をきく学生



展示即売会場で繭を観察



機織りを体験する学生たち



展示即売会でのタイシルク

タイでは毎年ファッションフェアが開催され、政府もデザイン・ファッションには高い関心を寄せています。2016年3月9日（水）～11日（金）まで「Bangkok International Fashion Fair and Bangkok International Leather Fair (BIFF & BIL)」が開催される予定です。

次は別の学生チームと一緒にミャンマーに向かいました。ヤンゴンには5年ぶりとなりますが、政権が変わり世界から投資先として注目を浴びている現在、その大きな変化に驚かされました。市内は一気に車社会になり、あちらこちらで渋滞が起きています。ショッピングモールも建設され、スーパーには日本食材や海外製品が数多く陳列されています。ホテルの相場も高騰し、前回と比べ2倍以上の料金となりました。一方、インフラはさほど変化はなく、まだまだ未整備のところが多いです。特に道路の舗装や交通網は改善の余地ありで、雨が降ると渋滞はさらに酷くなり、排水の悪さからか道路の所々で水が溜まっていました。今後の発展に期待をしたいと思います。



今回の訪問はヤンゴンとマンダレーで、オレンジとブルーを基調にした素材を探しました。また、衣装にあわせたサンダルも必要ということで 2012 年にセンターが interiorlifestyle 展示会に招聘した Royal Rose というショップに行きました。東京では引合いは多かったもののビジネスへは発展しなかった、またチャレンジしたいとオーナーが話していました。学生が求めていたサンダルが店頭になかったため、特別にショー用に製作してくれました。その出来ばえに学生も満足。



マンダレーの近くにアマラプラという町があります。ここは絹と綿織りが盛んな地域として有名で個人から中規模までの機織工房があります。かつてはビルマ王朝の王都として栄えたようですが、現在は絹織物の名産地として観光客を受け入れています。



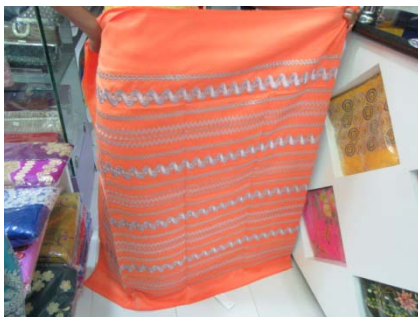
機織工房の様子



熟練の技術を熱心に見学する学生



ミャンマーシルクショップで素材を選択する学生たち



シルクにアチェイクというインドからもたらされた独特の様子が織り込まれている布です。元々はミャンマーの王族の為にだけ織り上げられる高度な技術を要する伝統的な織物でしたが、最近はミャンマー富裕層向けとして注文を受けているとショップの話でした。ここにもミャンマーの経済発展の波が来ているようです。 (K.H.)